

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第12号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2013年9月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net/>

* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

図上シミュレーション@横浜災害

8月18日横浜災害ボランティアネットワーク会議主催の図上訓練に参加しました。

「東京湾北部地震」を想定し、各ブロックで自分の地域の被害想定を確認し、図上訓練を実施した。揺れによる全壊数が横浜市全体で4174棟に対し、港北区は1039棟、緑区13棟、青葉区24棟、都筑区72棟と想定されている。このことから港北区は建物崩壊被害が多いこと、地域による差が大きいことを実感した。訓練は各区に分かれ、ボランティアセンター設置のための配置図を記載し、横浜災害ボランティアネットワーク会議の本部へ設置報告を行った。本部から各ボラセンへのボランティア要請依頼書が渡され、ボラセン単位、もしくはブロック単位で回答を決定し、報告を行った。



横浜市災害ボランティアネットワーク会議との連携方法

地図を見ながら状況確認する

が体験できたことにより、災害時の行動が明確になった。また港北区の隣接する青葉区、都筑区の災害ボランティア連絡会の方と会え、コミュニケーションが取れたことは大きな収穫であり、今後の連携につなげていきたい。また実際の災害時は情報が一番不足するため、リスクを加味し、その場で判断を出来るよう鍛えておく必要があると感じた。

(渡部明子)

関東大震災90年 教訓から学ぼう

防災の日制定のきっかけとなった1923年(大正12年)9月1日の関東大震災からちょうど90年という事で改めて神奈川県での被害を教訓化しようという動きが出ています。関東大震災というとすぐ思い出されるのが本所被服廠跡での3,8万人の焼死者や家屋の焼失です。そのため東京の災害と思われがちですが、神奈川の被害も大きいのです。資料から耐震化の教訓が読み取れます。

	神奈川	東京	全体	神奈川の被害割合
死者	32,838名	70,387名	105,385名	31%
全壊家屋	63,577戸	24,469戸	107,913戸	59%
焼失家屋	35,412戸	176,505戸	212,353戸	17%

想定される地震で港北区はこうなる！！

—どう備える？どう動く？何をする？—

横浜市は東日本大震災の教訓から新たな地震被害想定を策定して平成24年10月に公表しました。それに合わせて私たちもきちんと被害内容を理解しておかなければなりません。今回は発生の頻度は小さいと考えられるものの、被害が一番大きくなる「元禄型関東地震」をもとにデータをまとめました。これらのデータから各自の備えを固めるものを読み取って下さい。



想定条件 季節は冬、北風6m、発災時刻は午前5時、昼12時、午後18時

港北区人口 33万7383人（神戸市154万人、石巻市16万人「宮城県人口第二位都市」）

元禄型関東地震の区内の震度分布

震度7	小机町（一部）
震度6強	小机 鳥山 新横浜 新羽 岸根 篠原 富士塚 仲手原 新吉田 綱島東 大曾根 樽 綱島西 日吉本町 高田東 高田西

*その他の区内はほとんどが震度6弱

液状化危険度

危険度が高い地域	新横浜 箕輪町
可能性がある地域	小机 篠原町 綱島東 日吉



液状化による建物被害棟数 全壊 9棟 大規模半壊 122棟 半壊 221棟

*かつて沼地、水田、溜池であったり谷を埋め立てて造成した地域は危険度が高く、東日本大震災時にも被害が出た。

急傾斜地崩壊による建物被害棟数 全壊 21棟 半壊 40棟

港北区は急傾斜地崩壊の危険度が高い。

揺れによる建物被害棟数 全壊 2,532棟 半壊 8,698棟 全世帯数 156,186戸

*倒壊件数が多い地域 新吉田 高田東 小机 鳥山

建物倒壊による人的被害

5時発生	死者 180名	負傷者 2,238名	重傷者 222名
12時発生	死者 116名	負傷者 1,625名	重傷者 158名
18時発生	死者 128名	負傷者 1,687名	重傷者 166名

☆やってみよう！ 昭和56年以前の旧耐震基準で建てられた建物は倒壊の危険がありますので、横浜市の耐震診断を受けましょう。自己所有、自己居住の木造建築は無料で、結果耐震改修工事をする場合補助金を受けることができます。

☆やってみよう！ 家具類の転倒による死傷者が多数予想されます。これは家具類を固定することにより防げます。必ず転倒防止対策を行いましょ。出来ない方は区災ポラにご相談下さい。

火災による焼失棟数 冬 5 時の場合 1,511 棟 冬 18 時の場合 6,467 棟

火災による人的被害

5 時発生	死者 38 名	負傷者 45 名	重傷者 13 名
18 時発生	死者 133 名	負傷者 162 名	重傷者 45 名

* 焼失が多い地域 日吉本町 高田東 篠原 仲手原 富士塚

☆やってみよう！ 消火器置いていますか。使用期限チェックしていますか。

ライフライン施設被害

	全世帯数 156,186 戸	
上水道	41,633 世帯(26.7%)	復旧まで 1 ヶ月程度
下水道	7,752 世帯(4.96%)	復旧まで 1 ヶ月以上
電力	23,099 世帯(14.8%)	復旧まで 1 週間程度
電話	4,662 世帯(3.01%)	復旧まで 1 ヶ月程度
都市ガス	132,628 件(100%)	復旧まで 1 週間程度

☆やってみよう！ 食料や水は最低 3 日分は確保しておきましょう。多めに買って置いて普段から使い回しておくが無駄になりません。避難所に行けば何とかしてもらえと思っていますか。

避難所避難者数

5 時発生	1 日後 45,136 人	4 日後 37,883 人	1 ヶ月後 19,344 人
18 時発生	1 日後 53,404 人	4 日後 46,368 人	1 ヶ月後 28,384 人

帰宅困難者数 12 時発生 推定滞在者数 286,000 人

☆やってみよう！ 災害時伝言ダイヤルの練習をしておきましょう／家族の落ち合い先を確認し合っておきましょう。



首都圏地震で最も怖いのは膨大な人口から来る対応の難しさ

	南関東地震	横浜市	港北区	東日本大震災
死者	1,3 万人	7,098 人	261 人	18,539 人 (行方不明者含まず)
負傷者	17 万人	217,000 人	1,849 人	6,145 人
帰宅困難者	650 万人	455,000 人	28,600 人	515 万人 (首都圏)
全壊家屋	85 万棟	35,000 戸	2541 戸	40 万戸 (全半壊含む)
避難者	700 万人	577,000 人	53,404 人	40 万人 (最大時)
被害総額	112 兆円	-	-	25 兆円
被災地人口	3,700 万人	370 万人	33 万人	257 万人 (三県合計)

* 以上の数字は横浜市および関係機関による

(山本正史)

読んで役立つ災害本

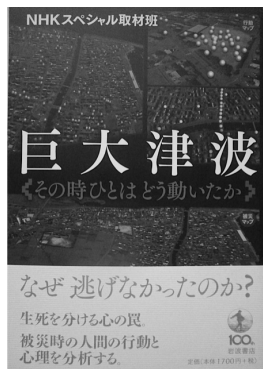
巨大津波

その時ひとはどう動いたか

NHK スペシャル取材班 岩波書店 1700円

ひとの心理には「正常化バイアス」が働くことはよく知られる事となった。異常事態が発生してもそれを異常と認めながらない心理状態を言う。結果自分を守る事が出来なくなる可能性が高くなる。韓国で起きた地下鉄火災時のビデオでは、煙が立ちこめてきたにもかかわらず席を立とうとしない乗客の姿が記録されている。

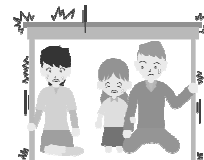
今回の大震災ではそのような心理状態に加えて、今までの津波体験が正確な認識の妨げになったり、情報不足が判断を難しくしたり、と悪条件が重なった。そのような中で人々はどのように行動するものなのだろうか。本書は名取市閑上地区の住民に聞き取りを行い、当時の動きを記録する中から、「なぜ逃げなかったのか」を探ろうとしている。「正常化バイアス」を越えるためにはどうしなければいけないか、普段と全く違う状況下で生き抜くための決断力、行動力に付いて考えさせられる本である。(宇)



会員紹介 白井保 (個人会員)

1995年阪神淡路大震災が発生した。これを機に対策が具体的に始まった。地域社会の交流が皆無であったので港北区社協にボランティア登録をし、知的障害者の支援を始めた。ふれあい委員会で地震の時の障害者の避難が話し合われた。1998年発足した港北区災害ボランティア連絡会の活動を知り入会した。2007年大倉山5丁目にある白樺町町会長になり、地域拠点の副本部長になった。港北区災害ボランティア連絡会は発災したとき全国から集まるボランティアを要請があったところへ派遣するコーディネーターを養成している。日頃の防災対策が大切なことを町内会で話し合った結果、昨年防災委員会が発足、保存版白樺町会防災のしおりを作成、全戸に配った。横浜市も今年5月保存版我が家の地震対策を全戸に配った。

減災には地震が起きる前にみんなで話し合い、水などの備蓄、家の耐震や家具の転倒防止が大切で、発災したら身の安全、火の始末、隣近所の助け合いが必要。常日頃の備えと積み重ねが防災には大切と思う。



毎年大人気!

『災害ボランティアコーディネーター養成講座』

申込先は区社協まで

■日時 10月5日(土) 10時~12時

■場所 港北区社協 多目的ルーム

■講師 高森茂範氏

日本赤十字社救急法指導員ほか幼児安全法指導員、防災ボランティアリーダーとして活躍され、阪神淡路大震災でもボランティアリーダーを務められました。数々の経験を踏まえた貴重なお話が伺える講座です。

編集後記

- ☆ 私たちは被害が小さいと安心します。そこには自分は該当しないという根拠のない安心感がありはしないでしょうか。(宇田川)
- ☆ ライフラインの復旧時間について危機管理室に問い合わせたのですがわからないと言われ、各部局、会社それぞれに電話しました。それぐらい把握してないで復興計画建てられるのでしょうか(山本)
- ☆ 豪雨や竜巻で日本各地に被害が来ています。港北区でもいつどこで何が起こるかわかりません。日頃からの備えは十分にしておきましょう。(野田)
- ☆ 関東大震災を経験した祖父母から「寝る時は枕元に洋服を畳んでおき、いつでも逃げられるように」と言われて育ちました。なのに今、実行していない自分があります。日頃の備えや心構えについて、きちんと考えなくては、と反省することしきりです。(山口)